

主伐・再造林の取組について

当地域では、陶都森林組合が公有林、生産森林組合有林を核に集約化に取り組み、森林経営計画を策定し、補助事業を活用して森林整備を実施している。



今回、陶都森林組合が、瑞浪市有林で主伐・再造林の一貫作業システムに取り組み、当地域のモデル林となるよう低コスト再造林実証試験地を設定した。

森林研究所
と協働

初めての秋植えに挑戦

補助制度
の活用

1

森林のたよりR3.11月号



積雪がなければネット式防除が良好なので、比較検証を実施することに。

令和2年度末（春植）に土岐市有林（1.61ha）で幼齢木防除を実施した。



柵防除の予定を「野ウサギの食害を防ぐため」幼齢木防除（チューブ式）に変更することを助言、施工性も良であった。

瑞浪市有林の主伐・再造林（3.60ha）

H27年度に列状間伐を実施



3



保有機械のウインチ付きグラップルで集積



生産性の把握

陶都Fの林産班（30代の2名）

面積：3.77ha
材積：735m³
人工数：74人日（準備工36人日含む）

生産性： 9.93m³/人日

土岐市石砂酒団地
(392m³)

8.00m³/人日

植栽・幼齢木防除（チューブ等設置）

面積：3.48ha（プロットF 除く）
本数：8,900本
人工数：87.3人日
（再任用技術者2名、臨時4名）

作業効率： 102本/人日

土岐市石砂酒団地
(1.61ha)

86本/人日

「最初に丁寧な植栽を現地指導」



土壌断面の層位区分

- A0層：有機物層 L層：落葉層
- F層：腐葉層
- H層：ほとんど分解
- A層：表層「腐食が多量に含む」
- B層：下層「A層より腐食が少ない」
- C層：基層「鉱物質が風化した母材層」

左上：初日に断面図を示してA0層を説明
A0層を除いてから専用器具「ディプル」
で穴をあけるところを実践した。

左下：忌避剤散布時、森林研究所の指導

チューブ式防除の現況、
植栽時期が1月中旬の厳
冬期であったが、概ね良
好に成長している。
強風によりチューブが外れ
たり、支柱が折れたりする
ことがあり、手直し作業を
要する。



ネット式防除とF調査区の
確認。
ネット式の良好に対し、忌
避剤散布方式のF区では
シカ、ノウサギの食害によ
り、改植、別の防除対策を
要する。